

枚方市シルバー人材センター「ふくろうファーム」視察報告

「ふくろうファーム」概要

- 枚方市シルバー人材センターが運営する農園で、高床式砂栽培システム「トレファーム」で、砂栽培を行っており、ビニールハウス内の温度管理や灌水にICTを活用している。
- 砂栽培には、ハウス内かつ高床であるので、比較的害虫がつきにくく減農薬野菜の栽培に適している、収穫時に特別な農具が必要ない、一作ごとに砂洗いすることで連作が可能になる、砂の性質上（構造上）収穫後の整地が容易であるなどのメリットがある。
一方、大根など根菜類の根が長いものの栽培は不向きである。
- 高床式ベッドの高さは90cm（調整可能）で、作業がしやすい高さを採用した。ベッドには建材が使われており、重みある砂を入れても揺らぐことはない。ベッド下面はメッシュになっており、水はけがよい構造になっている。



「ふくろうファーム」概要

- ・ 農業のノウハウは、「トレファーム」の販売を行っている東レ建設を通じて、他地域で行っている事例を収集し参考にしている。
- ・ 現在はレタスやトマト、メロン、グリーンリーフを試験的に植えている。
- ・ ビニールハウス内は風力計や温度計のデータをもとに、自動で換気扇の稼働や網戸の開閉が行われており、一定の温度が保たれる。
- ・ 設定したとおりに自動で灌水が行われる。手間のかかる肥料や水遣り作業を省略、水や液肥の無駄を防ぐこともできる。
(2023年7月26日現在は農園に水を引けていないため、農園のタンクまで手作業で水を運んでいる。)



「ふくろうファーム」概要

- 管理はほぼICTで行っているため手間がかからず、必要な作業は雑草（右写真）を抜く程度。週2～3回で1日30分程度の作業しかない。
- 近くに長屋があり、1部屋借りている。作業をする会員の休憩スペース兼、作物の販売所「いっぷく処」として運営予定である。



「ふくろうファーム」ができるまでの経緯

- 農園を開くきっかけは二点あった。一点目は、シルバー人材センターの会員に対しアンケートを行った結果、農作業をやりたい会員が多かったため、会員向け農園をつくれなにか検討したこと。二点目は、シルバー人材センターに対する運営補助金が削減され続けており、独自事業を行い就業機会の確保をしたいと考えていたこと。以上の二点を鑑み、シルバー人材センターが運営する農園の検討が始まった。
- まず、活動ができる土地がないことが問題になった。①車で来られることを想定し、駐車場があること②トイレが確保できること③手洗い用の水が確保できることの3点がクリアできる土地を、5年間探し続けた。
- クリアできる土地を発見し、土地の所有者と交渉し5年間の借地契約ができた。土地は4～50年放置されていた農地で、ジャングルのような状態で、電気も水も通っていない状況であった。

「ふくろうファーム」ができるまでの経緯②

- ・ 現在は、電気は通っているが、水は不通であり、水道水をセンターから農園の貯水タンク（右写真）に手作業で運んでいるが、本年9月ごろに改善予定。500ℓの水が2～3日ごとに必要になる。
- ・ 農地で農業を行う際には農業従事者の資格が必要であり、事務局長が取得した。
- ・ 独自事業を行うことから市役所に相談したところ、トレファムの紹介を受けた。
- ・ 令和5年5月に農園が完成し、同年6月に定植、7月に初収穫を迎えた。
- ・ 完成時には市役所が積極的に広報活動に参画し、初収穫の際にはNHKが取材に来てニュース番組で取り上げられ、農園での作業への参加について会員から多数の問い合わせがあったとのこと。
- ・ 問い合わせ主体は、どちらかといえば男性中心であるが、中には、女性会員からの「作物のラッピング作業の希望」など、事務局も想像していなかった作業内容の提案もあった。



「ふくろうファーム」の今後の展望

- ・ 開園して間もないため、どんな作物ができるか、どういった運営をするかを検討している段階である。「会員が働く場を無理なく運営できる仕組み」をつくりたいと考えている。今年度は作物の種類と、収穫物の販路、会員の作業ローテーションを考える期間とし、来年度から本格稼働したい。
- ・ 現時点では土地が狭いため、ふくろうファームでの収穫量は多くないので、無農薬であることをPRすることも含め付加価値がつけられるものを作りたい。枚方市には食品関係の特産品がないので、新たな特産品として高級メロン作りを成功させたい。
- ・ 他事例では、安定した収穫量を活かして特定の作物を作り、地元飲食店と契約し地産地消を売りにした取組もあり参考にしたい。
- ・ 農園の近くには、高齢者が多く住む、いわゆる「長屋」的な住宅群があり、農作物の販売以外にも、「いっぷく処」を拠点とした移動販売も検討したい。
- ・ 現時点での農園での作業は、雑草を抜くことと作物の成長具合の確認で、週2～3回30分程度である。農園での作業以外にも、「いっぷく処」の管理や、販売所・移動販売など、ふくろうファームを軸に、就労機会を増やしていきたい。
- ・ 農業に対する会員のニーズが大きいので、高床式のハウス栽培の実施だけでなく、「土」で栽培する農園を整備、開放し、「はじめての野菜作り教室」の開催も考えている。



「ふくろうファーム」視察をして

- ・ 一般的ではない砂栽培農業に、ICTによる環境管理を掛けることで、高床式農業が可能となり、高齢者が農業を行う可能性を広げる手段になり得るのではないかと感じた。
- ・ また、農作業を通じて、高齢者の健康増進や介護予防にも繋がることを期待したい。
- ・ シルバー人材センターの取組は、高齢者に仕事を紹介し、「高齢者が仕事をして収入を得る」以外にも、「多世代の地域課題を解決できる手段」や、「高齢者同士のコミュニティ形成の場（ある種の通いの場）」としての側面にも着目したい。
- ・ 枚方市シルバー人材センターでは、人材紹介だけでなく、自ら「ふくろうファーム」という事業を行い、そこで就労を確保している点も秀逸な取組であった。

